

## FD シンポジウム報告

テーマ「学部教育における地域との連携方法や、教員養成への成果と課題について学ぶ」

大学院（教育実践高度化専攻） 森田桂子

### 1 シンポジウムの概要等

篤原進教授から、「愛媛で教員になるモチベーションを高める教育内容・方法の充実」と題して、平成 28・29 年度 2 年間の取組についての報告があった。主な内容は、教員を目指す学部生による小規模校訪問の概要とその評価についてである。

愛媛県の教員になりたいというモチベーションを維持し高めるためには、県内各地（島しょ部、山間部、都市部）の各学校種での教育の実際を知ることが一番であるとの考えのもと、「教職教養課題特講」の充実を図り、愛媛県の教員採用試験を突破し地域で活躍する人材育成を目指している。本大学の教育改革 GP や COC+ に採択され、遠隔地実習にかかる学生の交通費等を確保し、学生の貴重な学びの場づくりに成功している。

(1)なぜ、山間部・島しょ部の小規模校なのか

①「教育の原点」

②愛媛の小・中学校総数の大部分は小規模校である。

③小規模校での学びにより、教職全般のことが必然的に習得できる。

・ 2 回生後期からの体験による学びの積み上げは意義深い。

・ 市街地に生まれ、比較的大きな学校で学び、大学に進学して教師を目指す学生にとって、愛媛の学校現場の現実、教師の現実を学ぶ機会になり得る。

・ 小規模校の生徒、教員、地域に触れることは、自分の具体的な将来を創造し、理想の教員像を膨らませるために大変効果的である。

・ 小・中複数免許がより有効である。

(2)学校教育教員養成課程カリキュラムマップの充実

・ 教職に就くまでの教育学部の教員養成課程

カリキュラムについての理解が深まった。

・ 取組後の学生アンケートの結果から、訪問の効果を具体的に実感できた。今後、どれだけの学生が本県採用試験を受験し、合格して教員となるか、その結果が期待される。

### 2 関連する授業改善等に向けて

○小規模校あるいは大学が近隣にない地域の児童・生徒等にとって、大学生訪問は興味深く、意義深いはずである。学校現場での実習は生徒や教員に愛媛大学生を印象付けるよい機会ととらえ、その実習内容により一層の工夫や配慮をし、どちらにとっても有効となる関係を成立させたい。

○学校現場を大人数の大学生が訪問する際には、その実習内容や方法に限界があると考えられるが、効果的なものとするためには、やはりより良質なプログラムの検討及び担当者間の綿密な打ち合わせが必要であると思う。

○教員を目指す学生が、東、中、南予の学校を訪問する場づくりができれば、県全域の理解につながる機会を得るのではないかと考えられる。また、自分の学んできた環境との違いをより実感できるのではないかと考えられる。

○学生の交通費等の確保ができなければ、学生が大学から遠く離れた場所で、学校や地域との連携を進めることは難しい。予算確保が必至である。

○小規模校あるいは遠隔地だからこそできる ICT を使ったつながり学習などが展開できれば、一過性の訪問に終わらない継続した学びの可能性があるのではないかと考えた。

○実習にかかわる授業においては、事前指導を徹底させるとともに、実習後の省察を大事にし、学生による発表や報告会、特に意見交換等をする中で、学生自身が自らの考えを深め、将来につなげていく学びを大切にしていきたい。